

日御碕神社の神話の背景の解説文

美しい夕景に包まれた姿が感動的な日御碕神社は、古代より天照大御神を祀ってきた。元々神社はここより北に位置する経島にあったが、948年に村上天皇（926年 - 967年）の勅により、現在の場所に移された。

嵐と海の神である須佐之男命と出雲の地の関係はさらに強い。神話によると、須佐之男命は高天原を追放された後に出雲に居住した。何年か経ってから、彼は子孫に自分を祀る神社を建てるように命じ、その場所を決めるために柏の木を風に放った。その葉は出雲日御碕灯台のすぐ南にある隠ヶ丘に落ちた。第三代天皇である安寧天皇（紀元前 567年 - 511年）の勅により、西にある現在の場所に移された。三枚の柏の葉は神社の御神紋となっている。